会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和5年度第2回武蔵村山市青少年問題協議会
開 催 日 時	令和5年11月10日(金) 午前10時30分 ~ 午前11時00分
開 催 場 所	市役所301会議室(市役所3階)
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：山崎会長、池谷副会長、長堀委員、荻野委員、小川委員、田中委員、平井委員、波田委員、菅委員、榎戸委員 事務局 子ども家庭部長、子ども青少年課長、手当・青少年係長、担当者2名 計15名 欠席者：内野委員、尾崎委員、小池委員、堀委員、鈴木委員、井口委員 計6名
議 題 等	1 開会 2 会長挨拶 3 報告事項 (1) 令和5年度「秋のこどもまんなか月間」に伴う実施事業について (2) 令和5年度武蔵村山市青少年健全育成協力者に対する感謝状の贈呈について 4 協議事項 武蔵村山市における青少年の現況及び非行・被害の防止対策について 5 その他(情報交換等) 6 閉会
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	協議事項：武蔵村山市における青少年の現況及び非行・被害の防止対策について 波田委員から東京都小平児童相談所管内の青少年の現況等について、情報の提供があった。 菅委員から警視庁立川少年センター管内の青少年の現況等について、情報の提供があった。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発言者) ◎印=会長 ○印=委員 ●印=事務局	報告事項(1)：令和5年度「秋のこどもまんなか月間」に伴う実施事業について 報告事項(2)：令和5年度武蔵村山市青少年健全育成協力者に対する感謝状の贈呈について ◎ それでは、報告事項について、事務局より説明願いたい。 ● 報告事項(1)及び(2)について、説明させていただく。 協議会資料の1ページ及び資料2「秋のこどもまんなか月間」に係る広報用チラシを御覧いただきたい。国では、毎年11月を「秋のこどもまんなか月間」として設定し、子ども・若者育成支援に関する取組を国民運動として総合的に展開する契機としている。このことから、本市においても期間中に諸活動を実施する予定としている。 月間の広報啓発活動として、(1)として11月1日号の市報及び市のホームページに月間に係る記事を掲載し、月間のPRに努める。次に、(2)として市民会館の外壁に「ふれあいと対話が育てるこの未来」という懸垂幕を掲出する。次に、(3)として子ども青少年課において、資料2の「秋のこどもまんなか月間」の趣旨のチラシと啓発物品を備え付け、市民等へ配布して月間のPRに努める。 続いて、報告事項(2)の令和5年度武蔵村山市青少年健全育成協力者に対する感謝状の贈呈について説明させていただく。協議会資料の2ページ及び資料3の武蔵村山市青少年健全育成協力者感謝状贈呈要綱を御覧いただきたい。 感謝状の贈呈については、資料3の贈呈要綱にあるように、本市の青

少年健全育成に関する施策の推進に協力し、特に功労のあった者に対して、青少年問題協議会会長が行うものである。具体的には、武蔵村山市青少年対策地区委員会及び武蔵村山市青少年補導連絡会の委員を退任された後、その功労をたたえとともに、青少年健全育成の一層の理解と推進を図ることを目的に感謝状を贈呈するものである。

今年度は、青少年対策第九地区委員会の杉田頼利様、青少年対策第七地区委員会の高萩健様と同じく第七地区委員会の土屋仁子様 の3名に感謝状が贈呈された。

【質疑・意見等】

- ◎ ただ今事務局から報告事項の説明があったが、御意見、御質問等があるか伺う。
- 一質疑なし

協議事項：武蔵村山市における青少年の現況及び非行・被害の防止対策について

- ◎ それでは、青少年の現況等について、各委員からお話を伺いたい。まず、東京都小平児童相談所の所長である波田委員にお願いしたい。

- 小平児童相談所の状況についてお話をさせていただく。

小平児童相談所は武蔵村山市を含めて9市を管轄しており、令和4年度の相談件数は3,823件であった。そのうち虐待については、2,115件と全体の55%を占めているが、虐待のうち、1,286件(61%)が心理的虐待となっている。

非行については147件で全体の3.8%となっている。

令和5年度上半期の相談件数については1,980件(速報値)であり、このままのペースでいくと年間約4,000件と令和4年度より若干増加する見込みである。

なお、虐待に関する相談件数については、1,099件で56%であり、昨年度が55%のためほぼ昨年並みの割合となっている。

武蔵村山市の状況は令和4年度の相談件数が296件で令和3年度が291件のため、ほぼ横ばいとなっている。

武蔵村山市の今年度上半期の相談件数は195件で、このままのペースでいくと昨年度の1.3倍程度になる見込みである。

虐待については相談件数が増えており、昨年は1年間で177件であったところ、本年度については上半期で123件となっており、このままのペースでいくと昨年度の1.4倍になる見込みである。虐待の相談件数のうち、76件(80%)が心理的虐待とはなっているが、相談件数が多くなっているため子ども家庭支援センターが対応するのも大変な状況となっている。

非行相談は令和3年度が23件、令和4年度が11件、令和5年度の上半期では6件となっており、件数は昨年度並みとなる見込みである。非行相談は万引きといった法に抵触する行為よりも、男子は素行、女子は家出に関する内容が多くなっている。

- ◎ 続いて、警視庁立川少年センターの所長である菅委員に立川少年センター管内の青少年の状況等についてお話を伺いたい。

- まずは当センターの補導状況等についてお話しさせていただく。

立川少年センターは11の警察署と17の市を担当しており、主に繁華街を中心とした補導活動を日々行っている。当センターの補導件数は、本年1月から6月の上半期で401人、昨年同時期と比べ△131人となり大きく減少した。補導件数が減少した理由については、コロナ禍により担当区域のゲームセンターが何店舗か閉店したことが影響した

と考えられる。

行為別でみると、風俗営業所と喫煙が多く、この2つで全体の約6割を占めている。学職別でみると、高校生が233人で最も多く、次いで中学生が146人となっているため、中高生で全体の約95%を占めている。

都内全体の補導状況は、今年上半期の補導された不良行為少年は15,008人、前年同期比で△84人となった。

行為別でみると、深夜徘徊が最も多く全体の約6割となっており、次いで喫煙、風俗営業所の立ち入りとなっている。この3つで全体の約9割を占めている。

学職別でみると、高校生が10,140人、次いで中学生が3,143人となっているため、中高生で全体の約9割を占めている。

東大和警察署の補導状況についてだが、今年上半期で262人の補導があり、前年同期比で+40人となった。一番多いのは深夜徘徊で211件、次いで喫煙が45件、それ以外にも飲酒やゲームセンター立ち入り等が挙げられている。

続いて、子ども達を取り巻く環境について2点お話をさせていただく。

1点目は新宿歌舞伎町のトーホーシネマズ横（トー横）界隈の件である。歌舞伎町東宝ビルの西側にある通称シネシティと呼ばれる広場周辺に、家庭に居場所がないと感じSNSで通じた少年たちが主に深夜帯に集まり、ホテルに連泊して家に何日も帰らないことがあり、泊まるためのホテル代を稼ぐために援助交際やパパ活をする子どもがいる状況である。

トー横に集まる子どもたちは飲酒や喫煙などの不良行為をしている者が多いが、一番問題になっているのは市販薬の大量摂取（オーバードーズ）を繰り返し依存症に陥ることである。また、大麻が蔓延しつつあるため非常に危惧している状況にもある。

違法薬物に手を出したり、パパ活や援助交際から性被害に遭ってしまったりすることから、非常に危険性の高い場所になっているが、立川少年センターとしても数年前から対策をとっており、区役所や児童相談所と連携して深夜帯を中心とした集中的な補導活動をしたり、福祉関連の取り締まりや補導した少年の保護者を相談に導入したりなど様々な対策を講じている。

2点目は闇バイトについてである。今年上半期の都内の特殊詐欺で検挙された少年が49人、昨年同期比で△26人となっているが、捕まるリスクの高い受け子・出し子に使われる状況となっている。49人のうち、中学生が2人、高校生が12人おり、中高生が安易に闇バイトに手を出している。警察としても求人サイトへの協力要請や若い人を対象とした広報・啓発活動を行っている。

トー横や闇バイトは東京都を通じて各中学校・高校に注意喚起をしているが、皆様の身近にいる子どもたちにも注意喚起をしていただき、トー横に行ったり、闇バイトに手を出してしまったりした子どもたちの情報を把握したら、警察や当センターに相談・情報提供をしていただきたい。

警察としても関係機関と情報共有を図りながら、少年の健全育成や非行の防止活動に取り組むので、御理解・御協力をお願いしたい。

【質疑・意見等】

- ◎ ただ今、波田委員・菅委員から青少年の現況等にお話頂いたが、何か質問等はあるか。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ ト一横に行った子どもたちの親は、いなくなったことをわかっているのか。状況を分析していれば内容を伺いたい。 ○ 一概には言えないが、ト一横に行くことを容認している家庭もある。家出されたら困る家庭もあれば、行ってもいいが終電までには帰るよう指導している家庭もある。なお、スマホに位置情報がわかる地図アプリを入れて、子どもがどこにいるのかわかるようにしている家庭もあると伺っている。 親の本音は行ってほしくないと思うが、ト一横に行くことを規制すると、子どもからの反発が別の方向に行ってしまう可能性もあるので、それぞれの家庭の考え方があるのではないかと感じている。 ○ 教育現場としても家庭への啓発などをしていかななくてはいけないが、中学校への啓発なども対応していきたいと思う。 なお、小学生で非行に走る人はいないのか併せて伺いたい。 ○ 今までの補導活動の中で小学生は思い当たらないが、ト一横は全国的にも有名となっていることから、関東近辺だけでなく全国から続々と集まっている状況にはなっている。 ○ 児童相談所には子どもからの相談はあるのか。 ○ 手元に数字はないが割合としては少ない。全体の半数弱が警察からの情報となっている。 ○ 昔の子どもたちであれば心理的虐待と感じなかったような言葉でも、今の子どもたちにとっては心理的虐待と感じてしまうといった状況はあるのか。 ○ 子どもを傷つけることを言うのが心理的虐待に当たるが、どのような内容であれば心理的虐待を受けたと感じるかは、子どもの個性によるものであると考える。 親が冗談で言っていると受け流す子もいれば、真に受けてしまう繊細な子もいるため、一概には言えない。
--	--

会議の公開・非公開の別	☒ 公開 傍聴者： _____ 0人 ☐ 一部公開 ☐ 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>
-------------	---

会議録の開示・非開示の別	☒ 開示 ☐ 一部開示（根拠法令等： _____） ☐ 非開示（根拠法令等： _____）
--------------	---

庶務担当課	子ども家庭部 子ども青少年課（内線：185）
-------	------------------------

（日本産業規格A列4番）